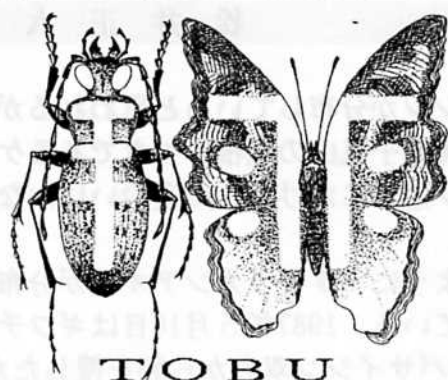




NO. 64

1987年 6月

百万石蝶談会

目 次

松井正人：河内村板尾コツ谷上流域にウスバサイシンを発見	 2
山本直樹：奈良県川上村のギフチョウ	 3
松井正人：ギフチョウの蛹殻を発見	 3
山本直樹：西会津町のギフチョウ	 4
松井正人：加賀地方のカンアオイ分布図	 4
嵯峨井淳郎：黒部市宮野山運動公園にてギフチョウを目撃	 6
松井正人：ギフチョウの産卵順序について	 6
金子二久：思い出ばなし：其ノ五（ギフの思ひ出）	 6
松井泰子：まぼろしのギフチョウ	 8
松井正人：1987年・暖冬・ギフチョウ初見記録更新作戦	 8
高野敏明：Self introduction	 9
編集部：会員の動き・しゃぼの動き	 10
編集部：例 会 の 記 録	 12

短 報 9			
ギフチョウ			
1987年4月6日	小松市仏大寺	3♂♂	吉村久貴
1987年4月19日	鳥越村火燈山	4 exs	松井正人
1987年4月22日	白峰村白峰	4♂♂1♀	勝海雅夫
1987年4月29日	金沢市尾の谷峰	3 exs	松井正人
1987年5月4日	河内村口三方山	4 exs	中西重雄・松井正人
1987年5月10日	河内村宿の岩付近	1♀	松井正人

河内村板尾コツ谷上流域にウスバサイシンを発見

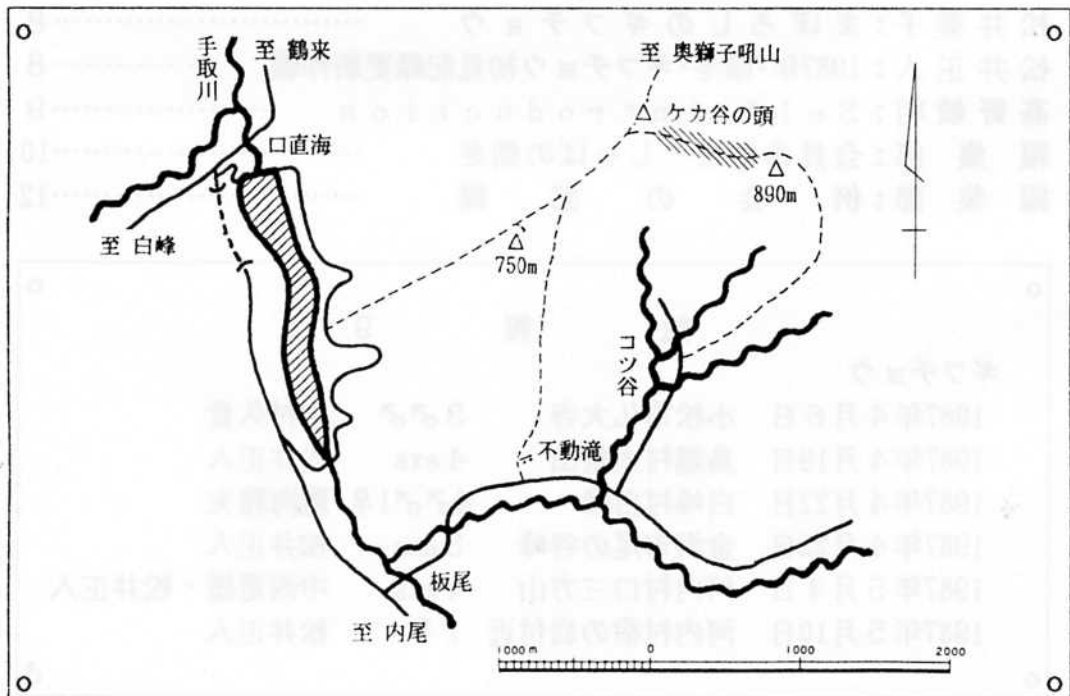
松 井 正 人

コツ谷の上流域一帯には広くウスバサイシンが分布していると思われるが、その密度は薄い。しかしながらその中でも奥獅子吼山の尾根つづきであるケカ谷の頭付近から口三方岳へ連なる890mピーク辺りにかけて、山道沿いにかなりのウスバサイシンを見ることができる。

この辺りにはウスバサイシンを取り囲むようにナタデラカンアオイが分布し(一部混生)、ギフチョウの既産地へと続いている。1987年5月10日はギフチョウ1♀を目撃し、ナタデラカンアオイ、ウスバサイシン双方から卵を搜したが、発見できなかった。

これまでも県内で数箇所からウスバサイシンが発見され調査されているが、未だに食草として確認されていない。しかしこれまでの産地はギフチョウの既産地(カンアオイ分布地)と接していないという点で、今回の産地とは大きく違っている。

白山をとりまく各地域(福井、富山、岐阜)には、ウスバサイシンを食草としたギフチョウが生息し、本県においても、その確認が望まれている。この地で時間をかけて調査すれば、県内初のウスバサイシン食のギフチョウが見つかると思われる。ただこの地へは、最短の不動滝コースでも1時間以上の山登りをしなくてはならないことが、ネックになると思われる。



奈良県川上村のギフチョウ

山本直樹

関西では和歌山県粉河町竜門山のギフチョウがこの2年間採集されず、ほぼ全滅したと思われる現在、一番人気はやはり奈良県川上村上谷のギフであろう。川上村は粉河町、吉野村(奈良県)、竜門岳(奈良県)と続く、紀ノ川水系の最上流の発生地であり、関西では現在採集できる最南端であろう。

1987年4月17日この川上村の全ての発生の地の現認者である奈良市のK氏のお宅に泊まり、18日はK氏の案内にて上谷のポイント等を案内してもらった。当日、2ヶ所のポイントに約20名の採集者が入っていて、すでに3日目という人もいたが、内容は0との事。17日は約10人で10頭程採集され、16日は数頭しか採集されなかったとの事。この日は20頭程採集されたようである。18日は無風快晴の絶好の天気にて、朝7:30に現地に着きすぐにピークに上がる事にした。約20分歩き、尾根沿いにポイントを探してブラブラ歩き回ったが、好ポイントには早くから多くの人達がすでに立っていた。南東向きの伐採跡の斜面に私達2人も待つ事にした。8:30過ぎ、まず第1頭目はK氏がネットイン、続いて他の人が、3頭目にやっと私のネットに入ったのは♂だった。斜面の東側は杉の植林(大木)、西側は雑木林で、なぜか東側の杉林側でしか採れないようで、西側にも数人いたが、全く採れずに帰った様である。私達は11:30には切り上げ、他のポイントに回った。

現在川上村では、3ヶ所ポイントが見つかったが、今の所公表できないとの事でした。発生の地の環境はだいたい人家近くの畑に接した植林地で、ミヤコアオイを食べているとの事でした。この日の成果は、K氏が上谷で2♂、山本1♂、他のポイントでK氏が1♂、山本1♀でした。

ギフチョウの蛹殻を発見

松井正人

1987年4月3日金沢市中戸においてギフチョウの蛹殻を1つ発見した。

午前10時半頃、樹高4m位のスギの植林地を歩いていたら、足元に止まっているギフチョウに気が付いた。羽化間もないような♂で手を差し出しても飛ばず、ワラビの枯れた茎につかまっていた。こんなチャンスはめったに無く、すぐさま周辺の枯れ葉をまくってみたところ、ワラビから5cm程離れた所から以外と簡単に蛹殻が見つかった。

蛹殻は帯糸が切れていず、腹端とともに長さ4cm、径2mm位の折枝にしっかりとつながっていた。場所は枯葉の下に出来た小さな空間で、湿気は十分に有るらしく、取り出した時に蛹殻は黒く光っていた。

この植林地は、スギ以外の草木は全て根元からきれいに伐られ、大変歩きやすく、また日当たりも良く、地形も平坦で、辺りにはたくさんのヒメカンアオイも見られた。

西会津町のギフチョウ

山本直樹

1987年5月2日秋田より転戦し、西会津のギフチョウをしばきに行きました。朝とにかく88ヶ所(蝶研出版)の上野尻(福島県西会津町)に入りましたが、少なくても♀のボロしか採れません。K氏と2人で5♀、これはダメという事で88ヶ所のカラー写真の徳沢(西会津町宝坂)に11:00頃より挑戦しました。途中来るときに徳沢の村中で、国道を横切るギフを見た所より山手に入り、山の上の伐採地を遠くより見つけ、入ることにしました。こんな急斜面にギフがいるはずがないと思いきや、いきなり谷の車道部分でギフを見る事ができました。それからK氏と2人、上へ登り急斜面を横切って行くと、所々凹地があり♂が日向ぼっこしていました。

加賀地方のカンアオイ分布図

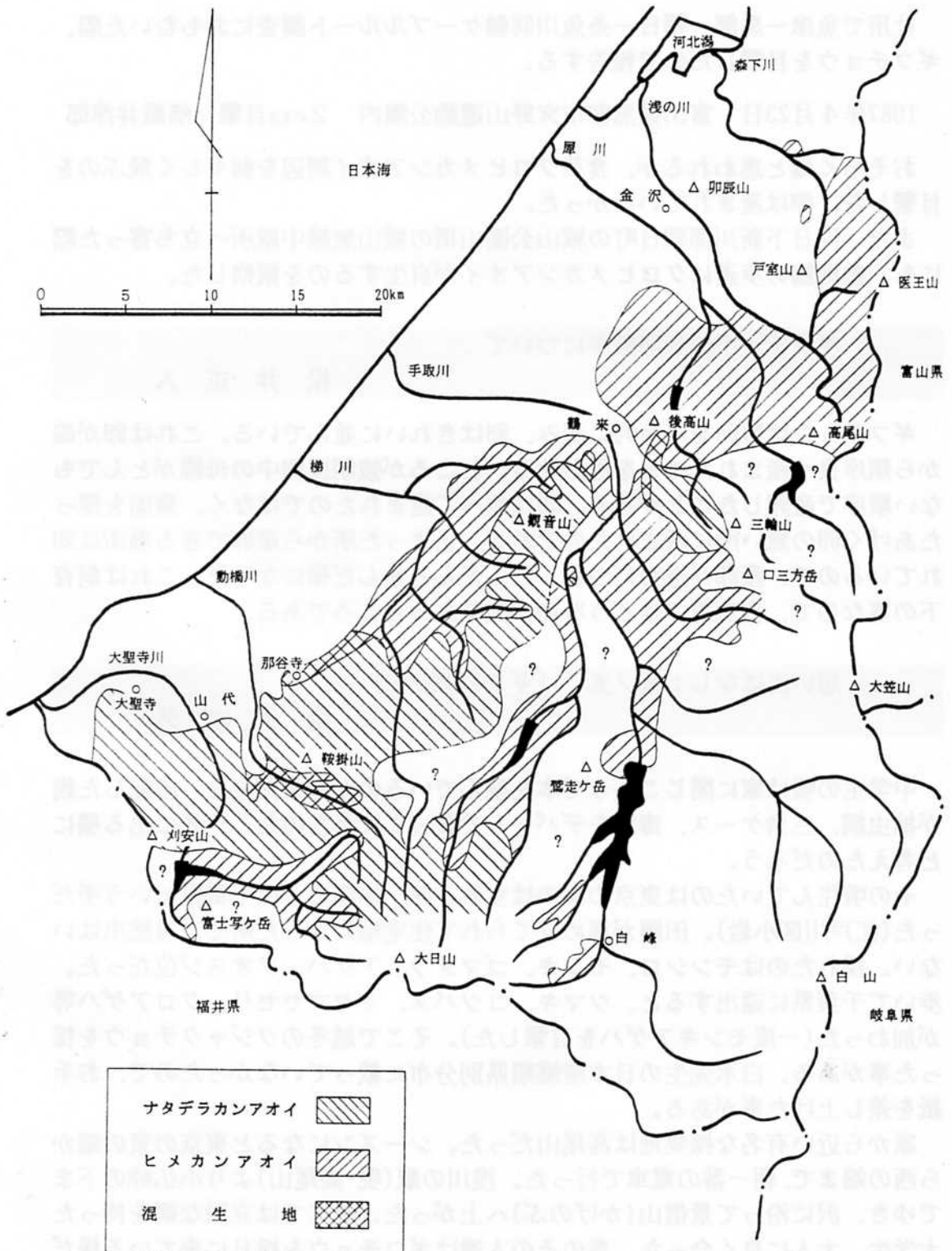
松井正人

加賀地方にはヒメカンアオイとナタデラカンアオイが分布し、どちらもギフチョウにとって良好な食草となっている。(フタバアオイは一部地域で食草となっているが一時的なものと思われ、ウスバサイシンはまだ食草として確認されていない。)また、これまでの調査からカンアオイがあればギフチョウが分布することがわかっている。(調査不足から総てを確認した訳では無い。)このことから加賀地方では、ヒメカンアオイとナタデラカンアオイの分布を知ることにより、ギフチョウの分布を知ることができると思われる。

ヒメカンアオイは富山県より連続して分布し、金沢市一帯では低地から山地にかけて広く分布する。その他の地域では河川に沿って見られ、高度を上げるに従って次種に置き換わるか、見られなくなる。ナタデラカンアオイの分布は福井県より連続していると思われ、加賀市では低地から山地にかけて広く分布する。その他の地域では尾根に沿って分布しているようで、高度を下げると前種に置き換わるか、見られなくなる。面白いのは両種が分布する地域で、一部混生もしているが、より低地にヒメカンアオイがあり、より高地にナタデラカンアオイがあることである。またナタデラカンアオイは手取川水系によって分布を大きくさえぎられ、わずかに後高山後方一帯でのみ手取川を越えている。

分布図には空白地帯が多く、その中にはカンアオイが分布しない地域(第四紀沖積堆積層及び火山噴出物地帯)、度重なる調査にもかかわらずカンアオイが発見できない地域、全く調査していない地域が含まれる。その中でも分布の可能性が強い地域には?マークが付いている。また調査地は点であるが、分布図では面的に表現されているので、当然予想が入り間違いも生じていると思われる。この分布図は完成されたものではなく、これからも調査を繰返し、より完全なものを作りたいと考えている。そこでこの分布図の間違いに気づいた方にはどしどし連絡して頂きたい。また空白地帯を埋める情報にも期待しています。

加賀地方のカンアオイ分布図



黒部市宮野山運動公園にてギフチョウを目撃

嵯峨井 淳郎

社用で魚津-黒部-朝日-糸魚川同軸ケーブルルート調査におもむいた際、ギフチョウを目撃したので報告する。

1987年4月23日 富山県黒部市宮野山運動公園内 2exs目撃 嵯峨井淳郎

おそらく雌と思われるが、食草クロヒメカンアオイ周辺を弱々しく飛ぶのを目撃した。卵は産まれていなかった。

また、同日下午新川郡朝日町の城山公園山頂の城山無線中継所へ立ち寄った際にも、敷地脇の歩道にクロヒメカンアオイが自生するのを観察した。

ギフチョウの産卵順序について

松井 正人

ギフチョウは数卵を平面的に産み、卵はきれいに並んでいる。これは卵が端から順序良く産まれたことを思わせる。ところが強制採卵中の母蝶がとんでもない順序で産卵したことがある。卵は並べて産まれたのではなく、葉面を探ったあげく卵の無い所に産まれたのである。止まった所から産卵できる場所は知れているので、産卵が進むにつれ、だんだんと並んだ様になった。これは飼育下の事なので、自然界ではどうなのか興味あるところである。

想い出ばなし：其ノ五 (ギフの想ひ出)

金子 二久

中学生の頃は家に閉じこもって本を読んでいるのが好きだった。心配した親が捕虫網、三角ケース、毒瓶をデパートで買ってくれたのも、戸外に出る様にと考えたのだろう。

その頃住んでいたのは東京の東のはずれ、河一本向こうは千葉県という所だった(江戸川区小岩)。田圃が埋め立てられて住宅地になった所で、当然虫はいない。採れたのはモンシロ、モンキ、ゴマダラ、アゲハ、アオスジ位だった。歩いて千葉県に遠出すると、ツマキ、コツバメ、ミヤマセセリ、クロアゲハ等が加わった(一度モンキアゲハを目撃した)。そこで越冬のクジャクチョウを採った事がある。白水先生の日本産蝶類県別分布に載っていなかったのも、お手紙を差し上げた事がある。

家から近い有名な採集地は高尾山だった。シーズンになると東京の東の端から西の端まで、朝一番の電車で行った。浅川の駅(現・高尾山)より小仏峠の下までゆき、沢に沿って景信山(かげのぶ)へ上がった。そこでは立派な網を持った大学生、大人に良く会った。春のその人達はギフチョウを採りに来ている様だ

った。しかし採れた様子もなかった。僕にはギフは高嶺の花で図鑑で見ただけだった。そのうち岩波文庫の“山の絵本”(岡田喜八著)で神奈川県石老山の裏へ降りる道にギフチョウが多いと読んだ。浅川の次の与瀬(現・相模湖)まで汽車でゆき表口より登った(1949年)。中腹までは樹の下で、途中の社の所で初めてテングチョウを採り喜んだ。頂上はハゲ山でキアゲハが舞っているだけだった。眼の下には相模湖、眼を上げると道志山塊が大きくそびえ、ハイキングとしては良い所だった。頂上からは左右を見回しながら下ったが何も採れなかった。樹が全くないので岡田氏が歩いた時から相当環境が変わっていたのかと思われた。降りきった所に林道が通っていた。車の来ない道を半分以上あきらめてブラブラ歩いていると雑木林に入った。しばらく行くと眼の前を小さなアゲハみたいな蝶がよぎった。あわてて追いかけて網を振る。初めてのギフチョウ。そこでもう一頭追加し、満ち足りた気分で行くと小学校があり、桜が満開だった。その横の小川のへりを風に逆らって翔ぶ姿を一頭採った。下校途中の子供達がもの珍らしげに見ていた。

何年かして、何がキッカケになったのか弟も蝶を採りだした。ギフが採りたいと言う。それなら、この前の所へ行こうと出かけた(1962年4月15日)。以前採れた所は伐り開かれていて、何処だったのか分からなかった。更に行くと道のわきに小川が流れ、草の枯れた雰囲気の良い所があった。“こんな所にいるんだけどな”とか言いながら、そこで昼飯にした。網を側におき、弟と背中合わせに座り、辺りを見張りながらニギリ飯を食べていると、小川の上、下の方から翔んできた。“出た!”とニギリ飯を放りだし、網をつかみ振る。網の底にもがくギフを見て弟が“イイナ! イイナ!”と羨ましそうに言っていた。そこでもう二頭採った。小学校のそばは全然だめで、もう一度先の所に戻ったがもう来なかった。その後、何年かして弟一人で出かけたが採れなかった。

大学の間とその後しばらく虫採りから遠ざかっていた。金沢に移った次の春、近くの丘へギフを探しに行った(そこは卯辰山だった)。藪をこいで上がるとグリーンがあり、ゴルファーがプレーしていた。薄汚い格好の僕はグリーンのはじを小さくなって歩いた。もちろんギフは見つからなかった。同じ研究室の同じ室の隣の人が何かの拍子に虫を集めていると知り“この付近にギフチョウっていますか”と聞いた。“そんなのなんぼでも翔んでいるよ”と言う。いくら勢いの良い先生(それが武藤氏:トンボで有名な人とはしばらく後まで分からなかった)でも少し言い過ぎではないかと思った。次の日曜日に一緒に採りに行くことになり、野田山から平栗への道を行った。斜面を次から次へギフチョウが降りてきた。それから数年、狂った様に採り、狂った様に飼育した。終齢になってカンアオイが足りなくなり、夜の山へとりに行った事もある。

その後も毎年桜が咲くと網を持って山へ行き振っている。網から出し掌にのせ開いてみる度にその素晴らしさに感激する。その胸のときめきが、初めて採った時と全く変わらないのは不思議である。

まぼろしのギフチョウ

松井泰子

あれはもう何年前だったのでしょうか、たしか私がまだ中学生の頃でした。母と一緒にドライブを兼ねて、山菜採りに鶴来方面(河内村福岡)に出かけました。ワラビやゼンマイもあまり採れずに、ただ春の日差しの心地良さに山の中をブラブラしていたのですが、突然私の目の前に一匹の小型の蝶がひらひらと舞い降り、湿った地面に羽を休めたのです。春型のアゲハかなくらいに思っただけで、私にとって、はっきりと目に入ってきたダンダラ模様は、まさにまぼろしとしか思えませんでした。ギフチョウ！ と小さくつぶやいてみましたが、信じられずに何度も目をこすったくらいでした。なにしろその頃の私は、図鑑に載っているギフチョウという美しい蝶は岐阜県にしかないものだと、そう固く信じていたのですから。しかしそんな私の戸惑いとは無関係に、目の前のギフチョウはなにくわぬ顔で、しばらくゆったりと羽を休めていました。今でもその感激と美しさは、はっきりと頭に焼き付いています。そしてそれからが大変でした。ハッと我れに返った私は何とかその蝶を手に入れようと、母と一緒に帽子やら袋やらを持って無我夢中で走り回りました。山菜採りに来たのですから、ネットも何も持ってきてはいなかったのです。なかなか素早いギフチョウを横目に、なにしろ岐阜県にしかない蝶をこんな所で見つけたのだから、これは大変、ここで採りにのがしたら一生後悔するとばかり、必死で山中を叫びながら駆けずり回りました。ふと見るとそばにあった山小屋にざるがいくつか置いてありました。もう他人の物もへったくれもありません。そのざるを持ち出し、一つ母にわたし、二人で何とかはさみうち。やっと仕留めたギフチョウでしたが、三角紙もなく、ちり紙にそっと包みました。鬼の首を捕った気でうきうきして帰ったのですが、しばらくしてまた家族で鳥越、河内等、鶴来方面へ出かけた際、ダンダラ模様がやたらあちこちで飛び廻っていたので、何処にでもいるのか～と落胆したのを覚えています。

このチョウは今も、少々色あせてはいますが、標本箱の片隅に静かに羽を広げています。そしてその羽は思い出をいっぱい乗せているが為に、私にとって他の飼育した無傷のものよりもずっと美しさを感じさせてくれるのです。

1987年・暖冬・ギフチョウの初見記録更新作戦

松井正人

1987年はまれにみる暖冬で、2月に入るとあちこちのスキー場では雪不足に悩み、早くも春の到来を漂わせる日々が続いた。こんな年は何十年に一度有るか無しかで、この期を逃す手はなく、ギフチョウの初見記録を更新しようと考えた男がいた。彼は1人より大勢で調査することを考え、蝶談会のメンバーを

そそのかしたのである。かくしてギフチョウ初見記録更新作戦がスタートした。

これまで石川県におけるギフチョウの最も早い記録は、1958年3月21日(※1)と思われるが、どうしてこれはなかなかの記録である。というのも最近20年間(1968年～1987年)の最も早い記録でも、1972年3月27日(嵯峨井淳郎)であり、足元にも及ばない。ところが石川県の記録などはるかに及ばない記録が岐阜市にあったのである。

1958年2月16日 岐阜市達目洞 1♀ 飯田逸博(※2)

こんな記録がある以上、何十年に一度の暖冬には、2月のギフチョウが発生すると思われた。

2月中旬、鳥越、鶴来方面でも低山には雪が無くなり、いよいよ調査開始。ところが発見できないまま、下旬になって大雪が降り、2月のギフチョウは消え去った。3月に入っても大雪の後遺症が残り、中旬になってようやく調査が再開された。好天がつづき、今にもギフチョウが飛びだしそうで、いつ記録が産まれるか、ワクワクするような焦れたい日々が続いた。ところがいっこうに記録は産まれず3月21日になってしまい、せめてタイ記録を作らんとめいめい各地へ散らばり、ついに1♂の記録が産まれたのだった。

1987年3月21日 辰口町和気 1♂ 中西重雄・横山 隆

2月より大騒ぎで始まったギフチョウの初見記録更新作戦であったが、当初の思惑からはずいぶん離れ、タイ記録に終わってしまったが、この記録にしても30年ぶりの大記録なので、満足している。尚、うかつにもこの作戦にそそのかされた懲りない面々は、勝海雅夫、嵯峨井淳郎、田中秀夫、中西重雄、中西朱美、松田俊郎、吉村久貴、横山 隆の各氏であった。皆様大変ご苦労様でした。

※1 武藤 明(1971) 石川県の蝶相 石川むしの会特別報告 第2号

※2 飯田逸博(1986) ギフチョウに関する2題(訂正、追加) とびむし NO.10

Self introduction

高野 敏 明

自宅 〒930-01 富山市北代1区660番
O型 昭和29年生まれ

TEL 0764-34-1651
自営業

蝶専門ですが、日本の蝶は採りたいものも採れなくて、気まずい思いをするだけなので、外国の蝶、とくにフィリピンの蝶を集めています。去年は2回ほど行きましたが、最近ちょっと行きずらくなっているのでイライラしています。他に東南アジアの蝶も集めています。

国内では年に一、二度くらいギフやゼフを見に行く程度です。

会員の動き・しゃばの動き

★大津の諸道氏、裏山でキリシマミドリが採れるとの情報を入手し、アカガシよりかろうじて2卵採集。この辺りのアカガシはゴツくて、とっても登れないらしい。

★4月4日勝海氏、二俣でギフをガッポリ採ってきた由。

★4月5日勝海氏、イモネットを担いで野田山へ。暑い一日ギフ採りに精を出したらしい。

★中西氏、平栗の住人にギフチョウとカンアオイの関係についてちょっと説明したところ、平栗ではカンアオイをチャワンバナと呼び、昔から親しんでいると教えられた。

★4月10日井沢氏、東南アジア諸国を歴訪中。帰国は5月中旬。

★4月11日諸道氏、突然金沢に現る。相変らずの諸道節で、スタイルも昔のまま。ところが言ってることは、「2人目が出来ちゃって、妊娠7ヶ月」と、やはり時の流れを感じさせる。

★俵小学校の田中先生、新学期早々テスト。「君達はこれを知ってるかい？」に、生徒「ヒラタクワガタや」すかさず「この辺りで採れる？」、「先生たくさんおるよ」と答えられ、田中先生思わずニッコリ。

★県内虫屋実力派NO.1の入場 登氏、またもや県内初のカミキリを採集した模様。

★吸血昆虫がエイズを媒介する?! 今さした蚊が何処かでエイズ感染者をさしていたとすれば…。虫採りには蚊が付きものだし、いやはや困った問題である。(月刊むし194号より)

★ギフチョウ88ヶ所巡り(蝶研出版)28番札所(河内村福岡)早くも危機。村営住宅建設の噂があり、隣接地は既にブルドーザーが走り廻っている。

★4月17日山本氏、奈良県川上村へ。ギフよりも採集者が多い中、何とか2exsせしめてきた。

★4月19日嵯峨井氏、家族サービスを兼ね五箇山へドライブ。ギフははしりで、スギタニルリがちょうど良かったらしい。

★4月19日松井氏、赤谷川へギフの調査。少々早すぎたらしい。

★4月19日勝海、横山コンビ、白峰へギフの調査。カンアオイがたくさんあるにもかかわらず、目撃だけにとどまった。

★4月19日松田、吉村、中藤の3氏、小谷村黒川へ。ヒメギフはまだはしりで、松田氏は盛んにカメラに納めていた。

★去年は全く通行止だった白山公園線、市瀬~別当出合間が5月16日から開通の見込みとなった。ところが、釈迦林道入口に新たなゲートが出来ているので、ひょっとすると釈迦林道は通れないままかも知れない。

★4月22日勝海氏、イモアミ抱えて白峰へ。念願のギフは尾状突起が長く、ご満悦の体。よっぽど気に入ったらしく、係長に白峰への配転を要望したとか、しなかったとか。

★4月25日吉岡氏、カミさんと共に来沢。新車(カーリーナEDツインカム16)の御払いに来たとかで、白山比咩神社までドライブして帰っていった。

★4月25日井村氏、入場氏に負けじと県内初のホソツヤヒゲナガコバネを採集。小原辺りの萌芽したエゾだかただエノキだかの枯枝から、新成虫がぞろぞろ這い出したらしい。

★県境踏破250km(山岳会ナカオ)が出版された。この山岳会のものは地図には載ってない道等が紹介され、大変役立っているが、今回の山行はほとんどが残雪期のもので、虫採りにはあまり役に立たない。

★4月下旬井沢氏、体調を崩し急きょタイから帰国。シンガポール行きを断念してまで帰国した理由が、なんと食あたりで、飛行機の中では大変だったらしい。

★4月29日松田氏、ミヤマカラスアゲハをカメラに納めんと板尾へ。下見に来ていた吉村氏と出合う。

★4月29日中西、井村、横山、勝海の4氏、北限のギフを求めて秋田の象潟へ。後部シートで酒盛をしながら金沢から8時間で行ったと言うから恐ろしい。ギフ、ヒメギフ、更にはマイマイもガッポリ採ってきた。

★5月1日山本氏、勝海氏にそそのかされ象潟へ。せっかくの遠出だったが、ポイントもわからず、天候に恵まれず1ペアに終わった。

★5月2日腹の虫が治まらない山本氏、津川、会津、盛岡と攻めまくり、ギフ、ヒメギフをガッポリせしめた。

★5月2日吉村貴己氏、帰省。3日程で帰っていったが、だんだん虫から離れて行く感じ。

★5月2日吉村、中藤の明倫コンビ、ミヤマカラスを求めて板尾へ。明倫勢はやはり黒の魅力に弱いのか。

★5月3日勝海氏、能登でクロコムラの採幼。食痕が決め手で、手の届く範囲でも簡単に採れるらしい。

★5月4日嵯峨井、田中、吉村の3氏、それぞれ単独で板尾へ。気温が低かったのか、成果はいまいち。

★5月4日松井、中西組、コブ付きで口三方岳登山。カンアオイの調査を兼ねた家族サービスとか。

★5月4日勝海氏、イエローバンドを求めて彼女とドライブ。一石二鳥の妙案だったが、どちらもポーズだったらしい。

★5月5日吉村氏、単独板尾へ向かったものの雨にたたられる。しかたなく家族ずれで賑わう鶴来町八幡でウスバシロを採っていた。

★5月5日松田氏、鶴来の森林公園でビデオに挑戦。フワフワ飛ぶウスバシロは格好の題材と思いきや、やはり飛んでることには違い無かった。

★5月5日井村氏、家族サービスとかで、開田高原へ。途中でヤツボシカミキリの幼虫や蛹がたくさん入ったズミの枯枝を拾ったと言っているが、これがいつもの手なのである。

★5月9日山本氏、ヒメギフの餌を採りに下平村までドライブ。おびただしい程のウスバシロを目撃。

★5月9日嵯峨井氏、高平氏の情報を基に、宝達山のウスバシロ調査。宝達辺りで、川の上を飛ぶウスバシロを発見。どうも河川敷で発生しているらしい。

★5月10日ウスバシロが大好きな金子氏、宝達のは白っぽいと聞かされ、やもたてもたまらず宝達川へ急行。しっかり採集してきた。

★5月10日松井氏、獅子吼の尾根続きでウスバサイシンを発見。ナタデラカンアオイと混生し、ギフも飛んでいたとかで、石川県での食草が一種増えるかも知れない。

★5月10日勝海氏、ミヤマカラスを狙って板尾へ行ったところ、ビデオカメラでお馴染の松田氏が、ミヤマカラスと言いたところだが、景色を撮っていたらしい。

★5月15日山本氏、羽咋から七尾にかけてウスバシロの調査。ウスバシロは発見できなかったものの、ジャコウアゲハを採ってきた。

★5月16日山本氏、蛭ヶ野高原へギフ採り。採集者大勢に交じってたくさん採集。まだまだこれかららしい。

★5月16日松井氏、志雄にてジャコウアゲハを目撃。河原の土手にウマノスズクサがたくさんあり、産卵中だったとか。

★5月16日嵯峨井氏、森本から津幡に向けウスバシロの調査。あちこちで多数確認し、分布の拡大ではないかと言っていた。

★5月17日山本、山口の2氏、大多和峠へギフの調査。蝶影なし、卵もなし。まだ早いらしい。

★5月17日嵯峨井、松井の両氏、ウスバシロを求めて五色ヶ峰方面へ。ムラサキケマンは確認したものの、雨に降られて終しまいとか。

★中西管工の社長さん、社名のイメージが古くさいとかで横文字の名前を募集している。ダマスターエンジニアリングが候補に上がっているらしいが、なんか地べたを這いつくばっているような名前ですなあ。

★ギフチョウギネスレコード？

黒部産は大きいと山本氏が騒いでいる。野外産開長は♂54mm、♀65mmだそうです。もっと大きいのがあれば発表してください。

例会の記録

4月10日(金)大桑町城南管工2Fにて開催。9時頃より始まり、12時に終わった。話題はゴールデンウィークの過ごし方で、各自思惑を秘め、同行者を募っていた。また新入会員2名と、6月のギフ特集の話。

各人の主な話題は、ヒメギフが採りたいので誰か連れてって(松田TEL参加)。僕が考えたゴロネクッションいりませんか(田辺)。富山ナンバーの車が有るから、富山へ虫採りに行こうぜ(中西)。医王山でオオシモフリズメを採ろう(山本)。ヤマキチヨウの採幼に行こう(松井)。兜山でギフの好ポイントを見つけた(勝海)。会津のギフは捨てがたいでっせ(横山)。もう今月分稼いだから、明日からは採集だ(井村)。オオウラギンかヒョウモンモドキを採りに行こう(吉村)。オオムラサキとハンメウのテレホンカードいりませんか(嵯峨井)。シイタケのほだ木が欲しいんだけど(澤田)。出席者は田辺、横山、吉村、松井、竹谷、澤田、中西、井村、勝海、嵯峨井、山本の11人でした。

とぶ NO.64 1987年6月5日発行

編集 松井正人

発行 百万石蝶談会

事務局 金沢市大場町東871の15

松井方

〒920-01 ☎0762-58-2727

郵便振替(金沢)5-562